

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

～守ろう地域のたから 育てよう故郷を愛する子どもたち～

【今年度の取組紹介】

【図書ボランティア活動】

限られた時間の中ではありましたが本の読み聞かせや英語カードの作成など幅広い活動を展開しました。

【広報紙「京チュン通信」(2回/年 発行)】

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回の発行に縮小しました。地域で決める学校予算事業や放課後子ども教室推進事業の内容を、多くのひとに知ってもらい理解してもらうための「京チュン通信」は、多くのコーディネーターが関わって写真や原稿を準備して作り上げています。

【シカに地域どんぐり届けよう!どんぐりプロジェクト】

京チュン通信を通して、地域住民にプロジェクトの輪が広まり、361 kg (去年は 50 kg) のどんぐりを回収でき、奈良の鹿愛護会に届けることができました。



【今年度のまとめ】

- ・学校担当司書のサポートをする図書ボランティアがいることで、学校図書室が子どもたちの居場所となり、地域人材を学校教育の一助にすることを継続できました。
- ・「京チュン通信」は子どもたちや地域の皆さんにも好評で発行を心待ちにする人が増えています。
- ・コロナ禍の後の新しい時代を見据えながら活動の輪を広げ、効率的な取組の方法を模索していきたいです。

【来年度に向けて】

- ・来年度も地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進します。
- ・『継続は力なり』をモットーに粘り強く取り組んでいきたいです。
- ・「史跡散策」「授業支援」「京チュン通信の発行」などの活動を地道に取り組み、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面で必要な支援ができる組織を目指します。

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

学校を美しく ころを豊かに 挨拶が響き合い

互いの思いを語り合える学校に

【今年度の取組紹介】

○今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方々と協働して行う活動は大幅に中止せざるを得ませんでした。例年、地域の方々と協働して取り組んでいる、「京中オープンスクール」、「国際交流事業」「ふれあい作業」「花いっぱい運動」は中止となりました。

○学習支援活動として、福祉体験の講師、または補助として取組に参加いただきました。また、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や環境整備等の取組に参加していただきました。

少ない機会ではありましたが、生徒たちは終始、地域の方と共に熱心に活動する様子が見られ、地域の一員である自覚が芽生えてきているように感じました。



【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。

地域の皆さんが温かく見守ってくださり、時には一緒に活動して、生徒たちに積極的に関わりをもってくださることで、生徒一人ひとりの心の中に学校愛や地域愛が生まれ、自らの地域、まちを誇れる生徒の育成につながっていると思います。また心にゆとりが生まれ、挨拶がしっかりできる生徒がますます増えてきて、まちでは朝から元気な声が響き、地域の方々との交流の機会となっています。

【来年度に向けて】

○感染症対策に工夫を凝らすなどし、今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいと思います。

○今年度は限定的な取組が多かった中、各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることがうかがえます。

○マンネリの活動にならないように工夫行うとともに、地域の方々が参加してよかったと思っただけの活動方法をさらに模索していきたいと思います。

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

命こそ宝、地域が宝。コロナに負けない宝を活かそう！

【今年度の取組紹介】

・新型コロナウイルス感染による感染拡大予防措置を取りながら、ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動を支えてきました。

① 図書ボランティア（としよぼん）による活動

- 掲示物作成
- 新書のブックカバー作業
- 本の整理
- としよぼん通信の発行
- 書架の作成 等



② 学習支援

- 福祉体験の補助
- オンライン読み聞かせ
- 七夕飾りの補助 等



【今年度のまとめ】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により当初の活動計画の変更を余儀なくされましたが、感染状況を見ながらできることを地域と共に考え、再開できた活動もありました。

【来年度に向けて】

- ・保護者・地域にも活動取組を紹介することで、学校にいなくても活動がわかるように発信していきます。
- ・感染予防対策をしながら、「できる事を できる時に できる形で」地域の方と共に前進していきます。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、自らのまちを語れる子ども

取組目標

ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～

【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた取組をなかなか思い通りに進めることができませんでした。人と人ができるだけ交わらないように工夫しながら、極力取りやめにならないようにして実施しました。地域行事として伝統文化を学ぶ「天の川の集い」「しめ縄づくり」「干し柿作り」「とんどの集い」は、コロナ禍ではありましたが、工夫をして実施しました。地域の方と昔からの伝統行事を体験したり、地域の方とのふれあいを楽しんだりする良い機会は少なくなりました。また、コロナ禍ではありましたが、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、薬物乱用防止教室をリモート授業で開催しました。

そのような中で地域の方に、見守り活動や図書室の整備、花いっぱい運動、清掃活動の環境整備に努めていただきました。

毎週、図書ボランティアと図書館司書によるブックカバー貼りや図書室の環境整備、図書コーナーの設置、読み聞かせなど子どもたちが本に親しむ場を作っていたいただき、読書をすることが楽しいと感じる子どもが増えました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の方との交流を目的とした体験的な活動が計画通りに進めないながらも、地域の方や地域 CN の方々が中心になって、それぞれの行事をあきらめることなく、工夫をした学習環境づくりを通して子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。

【来年度に向けて】

新しい学校様式の一つとして、本年度、コロナ禍で培った、リモートによる児童への学習場面の設定、事前の映像制作による学習場面の設定をさらにステップアップさせ、子どもたちの学びを深める体験活動や環境整備を中心に取組を進めていきたいと考えています。地域の方が学校教育に参画していただけるような学習場面を設定し、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして参加していただけるような年間計画の作成を行うとともに、新たな人材発掘をしていきます。

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

こころとからだで感じ、意欲的に遊び、たくましく生きる子ども

【今年度の取組紹介】

○六条幼稚園では長年、園で栽培した菜の花から採取した菜種油を世界遺産の「薬師寺・唐招提寺・元興寺」に奉納している経緯があります。進級・入園した子どもたちは、多くの地域の方に学び、助けていただきながら秋に種を播き、春に満開の菜の花に見守られ、刈り取りや搾りまで、菜の花が油かすや灯明用の



菜種油になる体験をし、ESD（循環型学習）を学ぶことができました。同時に園舎から望む薬師寺東塔や西塔を原風景とし、古くから大切にされてきた文化を誇りに思う気持ちも育ってきました。



○地域の文化を身近に感じている子どもたちに、同じく古くから当地に伝わる「赤膚焼き」にも興味を持ってもらいたいと、地域から講師を招き「赤膚焼き体験」を企画しました。

赤膚焼きは、古くから日常使いの焼き物にも使われていて、子どもたちの生活に身近に存在しています。11月の作品展に自分たちで作った焼き物を展示し、親子で赤膚焼きを大切にしていこうという気持ちが育ってきました。



【今年度のまとめ】

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染対策として地域の方を招いての事業は縮小して実施してきましたが、「六条幼稚園といえば『菜の花プロジェクト』」と地域の方々に認識していただけるようになりました。友達と力を合わせて得た達成感や満足感、地域の方と触れ合っただけで学んだコミュニケーション力や感謝をする気持ちが意欲や思考力につながり深い学びへとつながっていきました。

【来年度に向けて】

園児数の減少が懸念材料ではありますが、来年度は、六条幼稚園創立50周年を迎えます。地域に見守られながら幼稚園があるということに感謝の気持ちを持って、感動することや友達と一緒に考え表現する楽しさを存分に味わえる事業を展開していこうと考えています。又、園の行事や子どもの様子をホームページやブログで発信し地域の皆様に見守っていただきながら活動していきたいと考えています。

めざす子ども像

『自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども』

取組目標

いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、
心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる。

【今年度の取組紹介】

◆ お話ひろば

子どもたちが楽しみにしている『お話ひろば』では、地域コーディネーターの方やおはなしせんと会の方、大学生のボランティアの方による絵本や紙芝居などの読み聞かせをしていただきました。子どもたちは興味津々で、絵やお話、言葉のやりとりを楽しんでいました。温かな雰囲気の中で、様々な方と絵本を通して触れ合い、いろいろな話を聞くことで豊かな心を育むことにつながっています。



◆ のびっ子クラブ

年6回、“健康な心と体を育む”ことを目的に、講師を招いた運動遊びをしています。サーキット遊びやリレー、鬼ごっこやジャンケンゲームなどルールのある遊び、縄跳びなど、友達と一緒にいろいろな遊びや動きを体験しながら、体を動かす楽しさを味わっていました。また、子どもたちが日頃の遊びに取り入れ、夢中になって遊ぶ姿も見られました。毎回、園にある用具や遊具を活用しながら、楽しく体を動かす工夫をしてくださることで、子どもの遊びの環境をつくるうえで、保育者の学びにもなっています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍での事業となり、計画していた活動が実施できなかつたり、回数が減つたりしたものもありましたが、地域の方々の協力を得て、取組を継続することができました。環境整備事業や、様々な人との関わりや経験を通して、子どもたちは、周りの人への感謝の気持ちを持ち、人と関わる心地よさや親しみを感じて接する姿が見られました。また、講師を招き、英語にふれたり、体を思い切り動かしたりする活動では、子どもたちの興味関心の広がりや「やってみよう」「またしたい」という意欲につながっています。保護者の方からも地域の教育力を活かす取組に高評価を得ています。

【来年度に向けて】

心豊かでいきいきと活動する子どもの育成をめざし、子どもたちが人と関わりながら心を動かし、様々な体験を積み重ねていけるよう、地域の方や保護者と連携し、活動方法を見直したり工夫したりしながら取り組んでいきたいと思えます。また、地域や保護者の方に園の取組や子どもの様子をより理解していただけるよう、啓発活動に努めていきたいです。